

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	社会福祉法人エムアール会 グループホームグリーンピア(ユニット3)	評価実施年月日	平成19年 5月 22日 ~ 5月 30日
評価実施構成員氏名	小山田美穂 下澤和加子 杉森由美子 太田 慎吾 富塚 麻喜 鎌倉 弘美 小林 裕子 櫻井 怜子 小泉直子		
記録者氏名	小山田美穂	記録年月日	平成19年 5月 31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型となってから理念の見直しは行っていないが、ホームの中で入居者様が、その人らしく暮らしていく為の理念はある。	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念となる様に、見直する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者様が穏やかに、そして充実した毎日を送れるよう、全職員が理念を元に、色々な事に取り組む、努力している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族様には理念について訪問時に説明したり、GHのパンフレットで紹介している。しかし、地域に対しての取り組みは出来ていない。	<input type="checkbox"/> 地域の人には広報紙を配布したり、ホームの見学に来てもらい理念を伝えていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方達との付き合いは、畑仕事や散歩、買物などの時の、挨拶のみとなっている。	<input type="checkbox"/> もっと気軽に訪れて貰える様に、散歩の時などに話しかけたり、交流の場を持つ。交流の場としては、お茶の時や、行事の際に声を掛け招待する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近くの保育所の運動会や、地域の夏祭りには毎年参加している。しかし、町内会に入っておらず、その他の交流がない。	<input type="checkbox"/> もっと、色々な活動に参加して交流が持てる様になりたい。盆踊りの参加や、近くのコミュニティセンターの利用。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	この事に関して話し合いは行っていない、取り組みもない。	<input type="checkbox"/> 掲示板を設置し活用すると共に、認知症に関するお便り等の、配布等を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価を行うことで、現状を見直す事や自身のケアを振り返る事が出来ており、この取り組みが大切な事と理解している。また、受けた評価からホームが良くなる様に、改善に向けた取り組みも行っている。</p>	
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>概ね2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。北区の関係者、地域住民、入居者様、家族様から意見、要望をもらうようにし、話し合いがなされている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>北区の管理者会議等に参加したり、市や北区に相談したり意見を頂いてサービスに活かしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>この事に関しては、職員の理解に濃淡があり、深く理解してない職員が多い。家族からの相談には、管理者が対応し説明している。</p>	<p>○ 全職員が理解する様に、学ぶ機会を持つ。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全体の学習会は行っていないが、虐待防止に関連した記事や母体施設からの通達を回覧する事で、絶対にあってはならない事との理解は出来ているし、防止にも努めている。</p>	<p>○ 虐待にも色々あるので、全体で一度学習する事で、より理解を深める必要がある。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には管理者が家族様に時間をかけて説明している。家族様に不安が認められた場合には、更に時間をかけ納得いただくまで説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様からの意見、不満、苦情は、普段の会話から汲み取る様にしているし、また、その事を聞いたら全職員が内容を把握し、訴えを解消出来る様に努めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者様の事については家族連絡帳に記入すると共に、面会時にも都度話している。金銭についても、定期的に事務より出納の報告がされている。職員の異動については、新しい職員は必ず挨拶をしているが、異動したり退職する職員の事は聞かれるまで説明していない。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者が受けた事は職員に報告され、職員が受けた事は管理者に報告し、話し合う機会を持っている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見や提案は管理者が聞いてくれており、それを上司に伝えてくれている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者様の状態に合わせて話し合い、勤務を調整している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各ユニットの職員は固定化しているが、異動や離職により新しい職員が入る場合、ダメージを防ぐ為、職員配置をリーダー会議で検討する等して信頼関係が保てるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場内に学習委員会があり、自発的に参加する学習会や専門の先生に依頼して研修を行ったりしている。また、北区研修会等に行く機会を与えている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は、札幌市や区での定期的な会議や交流会に参加する機会があり、職員は研修を受けることが出来、質の向上を目指している。また、近隣のグループホーム管理者との情報交換もしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のストレスに対しては、個別に把握するように努めている。また、事業所全体で親睦会があり気分転換を図ったり、休憩室などの部屋を提供している。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	健康診断が行われ健康は保たれている。勤務状況をみて、希望の休みが出来るだけ取れるようにしている。また、ストレス疲労感をためない様に、親睦会等を開催している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	以前に受けていたサービス機関からの情報等をもとに、見学时(来訪の際)本人様の現在の不安や、今後の希望を聞いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学時の相談、その後入居にいたるまで不安や変化について電話にて対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者が、本人やご家族の思いなど現状を聞いて、他の社会資源等の紹介を含め対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り本人がホームを見学し、住み変わることに納得してもらうよう家族とも相談している。やむを得ず、すぐ利用になった場合には、ご家族等になるべく回数多く来てもらい、安心感を持ってもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様に料理を教えて貰ったり、戦時中の話を聞いたり、一緒にレクリエーションを楽しんだり、生活の中で時には励ましの言葉を頂き、また常に感謝の気持ちを持って過ごしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様について一緒に悩んだり、解決策を考え、共に支えて行く為の良い関係が出来ている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前の関係を把握した上で、入居者様の生活の様子を伝え、良い関係が持てる様に、続けられる様に支援しているが、溝が出来てしまう方もいる。	○	本人、家族それぞれの話をもっと聞く時間を持つ。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人に来訪して貰う事はあるが、入居されてしまうと家族様の都合もあり、友人宅を訪れる事や馴染みの美容室利用など、どんどん遠のいてしまっている。	○	馴染みの場所をもっと知ると共に、家族様にお墓参り等だけでなく、本人様達の意見を伝えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶やレクリエーションの時間に、利用者様同士の会話がはずむ様に心掛けている。また、性格的に合わない方々などの把握もしており、職員が間に入る事で関係が保てる様にしている。それでも、一人になってしまう方には職員が話しかける事で、孤独感を感じない様にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も家族様から連絡して頂く事があり、他入居者様の家族様と連絡を取ったり、会いに行ったりとされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	例えば散歩や髪型など、入居者様の意向を把握し出来る限りその意向に沿う様に努めている。困難な場合でも、本人様などの様にするのが一番良いかを考える様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族様から情報を得て、その後も本人様から聞く話の中から知り、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方や心身状態は把握出来ているが、個々の力は発見しきれていない。	○	もっと個々の出来る事を探り、提供していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人様、家族様の意見、要望を聞き介護支援専門員に指導を受け職員で話し合った上で、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しは、長期目標の機関に合わせ行っている。入居者様の状態に変化ある場合は、その都度、見直しを行っている。	○	短期目標の3ヶ月に合せたモニタリングを今後、早急に行っていく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の様子を個別に記録し、情報が共有出来る様にしている。その記録は計画の見直しの際に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診や理美容、外出(買物)などの要望に答え対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して生き生きと暮らしを作れるような公的機関の協力や行事を通してボランティアの慰問など取り組みをしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	同一法人の中に介護支援専門員がいて話し合いが行われていて、温泉風呂の利用や歯科・理美容サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、会議前の電話などで、相談等を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>かかりつけの医院があり、気軽に相談出来ている。連携を取り、その状態に合わせた対応を行っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>専門医を確保しており、利用者様の状態に合わせて相談もしており、受診出来る体制がある。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>GHとして看護師は居ないが法人が運営している他事業に看護師が配置されているので、その看護師に相談している。また、医療連携の看護師がおり24時間対応体制が取れている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には最近の様子や、服薬情報・ADL等を含めた添書を医療機関に提出している。また、家族とも情報を交換して早く退院出来る様にしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について事業所としては指針等出来ているが本人や家族の意向などは、まだ話し合っていない。</p>	○	<p>家族と相談し、重度化、終末期に向けた方針を話し合う。</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたチーム支援に取り組んだ事がない。</p>	○	<p>今後の変化に備えて、家族、医師と連携して検討や準備を行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報交換する事で、今までの生活を継続出来る様に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛けには十分注意して行っている。記録なども大切に扱い保管している。しかし、時々言葉掛けに注意が足りない時がある。	○	もっと言葉掛けなどに注意をしていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた声掛けを行う事で、自ら選んで貰ったり、納得して生活出来る様支援している。	○	出来ているが、選んで頂く場面をより多くしていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ個々のペースに合わせた生活を送って頂いているが、入浴や行事など、時々職員の動きに合わせて貰っている事がある。	○	個々の過ごし方に、なるべく浴う様にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は経済的な事や家族様の考えもあり、中々本人様の望む通りになっていない事もある。身だしなみや、お洒落については個々の好みを大切にして支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	食材を全て好みに合わせる事は出来ないが、出来るだけの支援はしている。調理や片付けなどは一緒に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様によっては、病状的なこともあり本人様の望むままとは日常的には出来ないが、行事の際などにお酒を楽しんで頂いたり、出来るだけ希望に沿う様にしている。	○	酒好の人にはもっとお酒を楽しめる機会を増やしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し声掛けを行い、失敗を少しでも減らす事が出来る様に支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来る限り希望に沿って入浴して頂いているが、時間帯は午後夕食までに限定している。	○	夜間の入浴の機会について検討していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状態に合わせて日中に休んで頂いたり、夜間眠れる様に日中の活動を多くしたり、安心出来る様な声掛けを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様の個々の力に合わせて、役割を持って頂いている。外への散歩など、気晴らしとなる様に支援している。	○	散歩以外の気晴らしになる様な、近くの買物や、喫茶店等の外出の機会を持ちたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解した上で家族様に相談して、小額でも現金を持って頂く様にしている。しかし、実際に使う機会が殆どない方もいる。	○	今後、買物等へ行く機会を作り自ら使えるよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>春から秋に掛けては、散歩など外へ出掛ける事もあるが、個々の希望に合わせてとなるとあまり出来ていない。</p>	○	もっと希望に合わせた外出を多くする。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>普段行けない場所となると家族様の都合もあり、なかなか希望に沿えていない。</p>	○	利用者からの希望が出た時は、如何すべきか話し合いを行う。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p> <p>希望があれば行っているが、此方からの働きかけは行っていない。</p>	○	行事(母の日や父の日)等のお礼の手紙や、絵手紙などをホームのお便りと一緒に送るなど行っていきたい。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>面会時間は決まっていないので、家族様の都合に合わせて何時でも訪れて頂けるようになっている。来訪して頂いた際には気持ちよく過ごして頂ける様に、笑顔での挨拶から、ほっとひと息つける様にお茶の提供を行っている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束はいけない事だと理解し実際に行っていないが、身体拘束の全ての内容を正しく理解出来ない人もいる。</p>	○	何処から何処までが身体拘束となるか、しっかりと理解する為にも、一度学習する必要がある。
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>ホームの立地上(大型車の通りが多い)や防犯上、家族様の理解を得て、やむを得ず正面玄関のみ施錠している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は3人の職員で声掛けを行いながら見守りし、夜間は全ての部屋を見守れる位置にて業務を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や先の尖ったハサミは禁止、または施錠の出来る場所にて預からせて頂いているが、先の丸いハサミなどは、個々の状態に合わせて持って頂いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	知識を学ぶ事は出来ているが、個々の状態に応じた取り組みは完全には出来ていない。	○	個々の状態を把握し、事故防止に取り組んで行く。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員が対応出来る訳ではない。	○	全ての職員が対応出来る様に勉強会を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	入居者様が避難出来る様に、職員の訓練は行っている。地域の協力を特に依頼はしていないが、母体施設が近く協力体制が出来ている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様の状態に合わせたリスクについて、家族様と話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタルチェックの他、常に表情や身体に触れた時に変化を感じ取る様に努めている。また、排泄時や入浴時の全身観察も異変の早期発見の場となっている。その事は記録に残し共有されている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に薬の情報説明書を貰っているので、それを見ると内容は理解出来る。理解した上で薬を服用して頂いているが、出来ていない職員もいる。	○	内容や副作用、禁止物などについて、一度、全員が理解するように勉強した方が良い。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	水分を多く摂取して貰ったり、青菜やごぼうの他、乳製品を毎日取り入れている。また、毎日の体操で便秘の予防にも取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けや介助の必要な方については、毎食後または起床時や就寝時に行えているが、自力で歯みがきをできる方の中には全く歯みがきをしない人もいる。(その方については家族様も仕方ないとあきらめている。)	○	行えていない方については、家族様と協力し少しずつでも出来る様にしていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の摂取出来る量に合わせて提供すると共に、記録し状態を把握している。水分は毎日チェック表に記入する事で把握している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルス、MRSAについてはマニュアルがあり、予防に取り組んでいる。その他についてはマニュアルがない。	○	その他についてもマニュアルを作り、学習する必要がある。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具の扱いに関するマニュアルがあり、それに沿って毎日の消毒をしている。冷蔵庫は週に一度掃除し、古い食材は処分している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花や木が植えてあり、入りやすい雰囲気作りがされている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	植木や花を置き、飾りも季節に合わせて変えるなど工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	全員で過ごせる居間のソファの他、小上がりや食堂など、少人数でも過ごせる場所がある。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使っている家具や小物などを用意して貰い、個々に合わせた居心地の良い部屋作りがされている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間の空調機器による換気の他、毎日、窓を開けての空気入れ替えも行っている。フロア、各居室に温湿度計を設置し把握している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	必要な場所には手すりが設置され、居室内はクッションフロアとなっており工夫している。	○ 居室内の家具の配置や手すりなどを設置する様な提案が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室前には表札や馴染みのある物を置いてあったり、トイレなどにも判りやすい目印がある。</p>	<p>○</p>	<p>お風呂場を、より判りやすくなる様な工夫が必要。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑や花壇があり、その前も歩きやすい様に舗装され散歩に活用している。また、ユニットに広いベランダがあり、夏場は洗濯物干しに使われている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	④
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	③
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

1. 運営理念のもと、出来るだけ家庭的な環境を提供し、利用者の皆様が毎日少しでも多くの笑顔をもって、安心して生活出来るよう心がけています。
2. ホーム及び各居室は広く、明るく、スプリンクラーの設置など安全に配慮し、エレベーターも設置し、ホーム前には8台～10台の車両が駐車できるスペースを確保し、夏はこの場所を利用してバーベキューや花火大会を開催しています。日々